

2019 年度 (平成 31 年/令和元年) 自己評価結果公表シート

学校法人今村学園
幼保連携型認定こども園
いまむらこどもえん

園の概要

本園は 1933 年～2014 年度まで 82 年間現在地で高槻幼稚園として、保育・教育を進め、園舎全面改築を経て 2015 年 4 月より「幼保連携型認定こども園いまむらこどもえん」として再発足した。

乳児は育児担当制により、保育者との愛着関係を結び子どもの毎日の生活の安定と安心を大切にしている。幼児については園の理念のもと、自然に触れ、様々な感覚を使って直接体験すること、物事を敏感に感じ取ること、表現することを通し、「自分に命があること、それは何物にも代えがたい大切なこと。」ということを実感できるようにと考えている。またお互いの存在を尊重し仲間と共に様々なものやことを分かち合い共に喜ぶことを大切にしている。

本園の目指す保育・教育

生きること・学ぶことの根っこを育てる。

自然に学び、自然とともに生活を作り出す保育

五感を育て、ふしぎときまりに気づく保育

本年度重点的に取り組む目標・計画

- (1) 各部門の連携強化、職員同士の話し合いの機会を増やす、各自の思いを出し合える会議の方法の工夫
- (2) 保護者間、保護者と職員との連携強化
- (3) 園庭整備・植栽、畠活動のさらなる充実
- (4) 防犯・防災対策強化、周知

評価項目別の達成および課題状況

評価項目	達成状況及び課題
各部門の連携、職員同士の話し合いの機会を増やす、各自の思いを出し合える会議の方法の工夫	各部門・各自の会議、乳児幼児全体の会議の他、職員全体研修を年 3 回実施するなどし、現状と問題点・改善点、今後の今村学園の姿などについて話し合う機会を持った。 5 者会議として理事長・園長・副園長・乳児主幹・幼児主幹の会議を週 1 回のペースで行い、内容を各学年のチーフ会議、クラス会議等を通じて周知した。 乳児チーフ会議・幼児チーフ会議・クラス会議・学年

	<p>会議・乳幼合同会議・子育て支援会議、朝のミーティングでの情報交換等各種会議において園全体の現状と問題点、改善点、確認事項について周知するよう努めた。</p> <p>各自の思いを出せる会議の方法の工夫については、必要な報告及び連絡事項、協議事項の他に、一つのテーマで思いを出し合い、結論を導き出すことにこだわらず、保育者それぞれの思いを素直に出し合うことを大切にしたい。傾聴し、受け止め、自分の思いを話すことで相互の理解が深まった。</p> <p>昨年度は理事長・食育スタッフと食育会議を開催し、貴重な食材を大切にするという観点から、残食のないよう、コストダウンや食材について話し合ったが、今年度は現場の保育者も加わり、具体的な食事の提供のしかた等について意見を交わし検討するなど内容の充実を図った。</p> <p>今後も短時間での効率の良い協議の実施と、ゆっくりと話し合い、お互いの理解を深めながら進む道を確認する場の設定が必要と思われる。</p>
<p>保護者間、保護者と職員との連携強化</p>	<p>保護者同士の交流を図るため、1学期のうちに交流の機会を設定した。昨年と同様クラス懇談においても担任が一方的に話すのではなく、興味関心のあるテーマについてグループごとに話し合いを深めたところ、それぞれ積極的にお話をされ、様々な考え方にふれ、子育てのヒントを得ることが出来たとの感想であった。</p> <p>一日に1~2組のクラスへの保育参加を実施し、保育全般の理解、子どもへの理解に繋ぐことが出来た。</p> <p>保護者の子どもへの理解を深め、子育ての不安を軽減するため、6,11,2月と3回の食育講座を実施し、子育ての一助とした。</p> <p>紙ひこうきや流しそうめん大会の実施など保護者の親睦に繋がる行事を実施することが出来、多数参加していただいた。</p> <p>11月には園主催のお祭りの企画・運営に参画していただいた。2020年度はより早い時期から、ゆったりと、また様々な形で参加が出来るように共に計画を進めたい。</p> <p>1月にはフォトジャーナリスト長倉洋海さんの講演会には年長保護者中心に多数おいでいただいた。</p>

	<p>計画していた原の島の整備に3度も保護者の方々にご協力いただき、草抜きなどのお手伝いをしていただいた。</p> <p>今後もより参加しやすい形で、子どもたちの様々な環境について意見を交換し改善をしてゆきたい。</p>
園庭整備・植栽、島活動のさらなる充実	<p>園庭の田島を学年やクラスごとで1年間有効に利用し、様々な作物や草花の栽培をした。生長の過程を観続け、収穫したての味の濃い甘みのある作物を食べることで、次の栽培・収穫についても意欲と興味を持つことが出来た。植栽についてなど、園庭の利用に関しては、プロジェクトチームを作り検討することとした。</p> <p>原の島については残念ながら小動物の出現により、収穫前にサツマイモを掘り返されてしまい2年続きで収穫が出来なかったが、里山への動物の出現や作物を荒らすことについては、動物にもそうしなければならない理由があることを日本熊森協会の方々に、紙芝居や人形劇を通じて伝えていただき、人と野生動物の共生について考える時を持つことが出来た。</p> <p>2月に島全体を整備し施肥ののち、周囲の柵の整備をし、2020年度に備えた。</p>
防犯・防災対策強化、周知	<p>避難訓練は月1回行い、子どもたちの避難誘導・各職員の動きについて確認した。全くの抜き打ちでの実施も行った。不審者対策、地震、水害、豪雨に対する対策他マニュアルについては引き続き検討、再整備している。</p>

<運営・事業の推進>

組織・園務分掌の他事務部門の様々なシステムについて整備をすすめ、昨年に続き食育部門の改善、コストダウンの取り組み、運営全体について各部門責任者会議の実施など情報の共有や組織の強化を図っている。2020年4月より小規模保育園 necco を開園するため、準備を進めた。

<研修>

ECEQ コーディネーター資格取得のため大阪府私立幼稚園連盟の研修に参加する、高槻市私立幼稚園協力会主任会（ももの会）主催など、各部門が専門的な研修に積極的に参加している。職員全体の園内研修では、アレルギー対象児の誤食防止、救命救急の実技等について研修を受けた。

キャリアアップ等の研修で他園の保育者と交流し、たくさんの発見や気づきがあった。来年度はその学びをもとに部門に分かれて研究することが必要である。

顧問である鯨岡峻先生による、エピソード記述について等の研修を受け、日々の実践に生かすことができた。大私幼関係等他園の公開保育についても積極的に参加し、2020年度はECEQ型の公開保育を実施する予定になっている。

<保育・教育内容> 自己評価より

乳児クラスにおいては、昨年に引き続き、チーフ会議、乳児会議の充実、内外の研修に積極的に参加するなど研鑽に努めた。

育児担当制で、子どもの安心安全をはかり、穏やかな雰囲気の中で保育を進めるためにすべきこと、必要ないこと、について保育者間で随時話し合い、考えながら丁寧に進めていくことが出来た。安心できる環境の中で伸び伸びと過ごす子どもたちの様子から、「安心」にこだわった保育の手ごたえを感じている。保育を積み重ねる上で保育者同士の連携の大切さがいかに重要であるかということを実感した一年であった。

幼児クラスにおいては、市の中心街にありながらも園庭の田畠での栽培に力を入れたり、植物や小さな生き物など自然に目を向けることを大切にしている。1年を通して、原地区の方々のご協力を得ながら、畠での栽培活動や登山など里山での活動を楽しむことが出来た。もっと機会を増やし、五感を使って原の活動を楽しむよう計画することが大切である。

子どもの心と身体の育ちを第一に考え、日々の保育を組み立てているところ、手間や経費の問題からなかなか実行できそうもないことでも柔軟に対応し、本当の意味で子どもを第一に考えているところ、保育者同士が上下関係なく人として尊重し合って関わっていることが良い点である。保育者全体で子どもの成長を支え合っているが、活動について、自分の担当以外の活動の様子など、学年間、クラス間での情報伝達をより密にする必要があると考える。

2021年度よりクラス編成を縦割りにするため、プロジェクトチームを作り職員間で話し合いを重ね、準備する予定である。

<安全への取り組み>

防犯・防災対策について、避難訓練ごとに反省点を確かめている。報告書の書式を変えることで、個々のクラスの問題点を明らかにしたり、周知すること、全体の動きを把握することに役立てた。今年度は2月より新型コロナウイルスの感染拡大防止について、多々、迅速な対応を必要としたが、大阪府・高槻市・高槻市私立幼稚園連絡会・高槻市私立保育園連盟等、関係各機関と連携し、また、指導を仰ぎながら対応してきた。たくさんの情報の中から本園に必要な対応を迅速に決定し周知・実行、また情報交換するために、LINE、メールシステムが大変役に立った。新型コロナウイルス感染症の感染防止については、ゆったり、ゆっくりと子どもに不安を与えないよう対応しつつ、一般的な感染症の対策について見直し、強化をはかった。

<子育て支援・地域連携>

保護者に対しては、月1回臨床心理士によるキンダーカウンセリングをはじめ、保育参加、保育参観、個人懇談、また、気になることがあれば、すぐに個々に個人懇談の時間を設けている。丁寧にに対応することで、子どもを共に見守っていくという関係の構築に努めた。

学習会は昨年と同様、長倉洋海氏の講演会を土曜日に実施し、年長の卒園制作の日程とも重複させ、多数の保護者の方々にご参加いただく機会とした。

地域の子育て支援については、園庭開放（1、2歳児申込み制）、未就園児クラス（2歳児ぞう）、まめっちょ（月・金自由参加）、食育講座の機会を設けた。多数参加していただき、子育ての一助となったとの

ご感想をいただいた。講座に参加するだけではなく、その機会に、気軽に子育てについて相談していただく場ともなった。

また、昨年度に続き2月27日に常磐町自治会・北園町自治会の皆さまにおいでいただき、子どもたちの歌の会のリハーサルをご覧いただき、給食を一緒に召し上がっていただくなどの交流会を実施した。子どもたちとの触れ合いを大変喜んでいただき、保育内容をご理解いただく良い機会となったので、今後も継続してゆきたい。

<まとめ>

今年度も職員間で会議等を通じて様々な意見を出し合いながらの連携を強めた。各クラスは、子どもの興味関心を中心にバラエティに富んだ取り組みを実施したが、それぞれに違う取り組みの中でも、もっと協調し合ったり、支え合ったりできれば、より豊かな活動に繋がったのではないかという意見があった。情報を共有しているつもりでも細かい内容までは伝えきれていなかったなどの反省が上がっている。

安心・安全な環境、主体的な活動が保障される環境であるために、部門を超えた職員相互の連携が大切である。

小規模保育園 necco の開園に向けて、本園の乳児保育の実践をもとに準備を進めた。幼児においては2021年度から実施予定の異年齢保育、里山活動の充実に向けて確実に一歩ずつ、子どもたちの興味関心がどこにあるのかをよく感じながら進めることが出来た。

また、子どもたち一人ひとりの人権に配慮した言葉の掛け方、対応の仕方を大切にする、という視点を持った実践・研究を更に進めてゆく必要がある。

<学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果 他>

各部門の連携強化、職員同士の話し合いの機会を増やす、各自の思いを出し合える会議の方法の工夫
保護者間、保護者と職員との連携強化

園庭整備・植栽、畠活動のさらなる充実

防犯・防災対策強化、周知

等、今年度の計画の実施については概ね良好であった。

また、保護者アンケートにより保護者同士のつながりを強くすること、園にもっと気軽に子どもの事等を話す機会が欲しいと願っておられること、園の保育についてもっと深く知りたい、見えていない、などの意見があり、今後の課題があることを感じている。

<今後重点的に取り組む目標・計画>

- ・各部門の連携強化、職員同士の話し合いの機会を増やし、子どもの人権に配慮した保育内容の充実を図る
- ・保護者間、保護者と職員との連携強化
- ・園庭整備・植栽、畠活動・里山活動のさらなる充実
- ・幼児縦割りホームクラス制導入のための研究・計画を実施する
- ・防犯・防災・安全対策強化、周知

<改善点および目標の達成時期と方法>

- ・保育の質の向上のための研修・研究の充実のため、全体研修を年3回行う。
(子どもの安全・子ども理解・保護者支援・食育・特別支援・保育のさまざまな形態についての研究など)
- ・保護者の子ども理解を進め、子育ての不安を軽減するため、各種子育て講座を実施し、子育ての一助としたい。
- ・職員と保護者、また保護者同士の交流を図るための機会を新たに設ける。
- ・異年齢保育プロジェクトチーム・園庭環境プロジェクトチーム・行事関係プロジェクトチーム・身体を使う遊びプロジェクトチームを組み保育環境の改善を図る
- ・不審者対策、地震、水害、ゲリラ豪雨、感染症について等に対する対策他、マニュアル改正・周知

<施設評価委員による評価>

- ・保護者に対して、様々な意見をしっかり聞き丁寧に対応することは大切なことであり、引き続き誠意を持って取り組むべきである。毎年の保護者アンケートを実施することが望ましい。いつでも窓口を開いているという姿勢は大切である。
- ・保護者に園の取り組みをより丁寧に伝えることが重要である。
- ・職員各自の自己評価について、経験年数を加味して、3区分ぐらいに分けて集計すればより分かりやすくなるのではないか
- ・SDGsの取り組みについては、環境保全意識だけではなくそれに絞るのではなく、環境保全をはじめとした17項目を意識することは大切なことである。保育の根幹に繋がっていることなので日々の保育の中で目を向けるのは大切なことである。
- ・1人の子どもを深く読み取り、良いところや課題をつかむ。足腰の強い『生きる根っこ』をどう育てているか、どう育っているか、実際にどう育ってきているのかをしっかりとつかむ必要がある。
- ・また保育者がどのように今村の職員であることの自覚を持ち、『今村の人』になっていくのか、どう育ちあっていくのか、実際にどう育ってきているのかの検証も必要である。保育者も自分を大事にし、保育者同士が連携し今村の保育を担っていく、という意識を持つことが出来ればよい。
- ・自分のペースでよいので、ここで働いているという意味を考えてみるとよいのではないか。
- ・形だけではなく『子どもの姿がこうだから』を考えてから、保育を進めることが大切。
- ・自然を大切に、命の尊さを実感し、バーチャルではなく本物を求め、驚きと感動を覚える保育を続けるために、原の里山での活動は大変良い取り組みである。
- ・小規模保育園の開園など世の中の変化に備えた取り組みは大変良い。

<財務状況>

監査法人の監査を受け妥当であると認められた。